

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200080		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームきら		
所在地	愛知県西尾市吉良町吉田山中6番1		
自己評価作成日	平成26年11月21日	評価結果市町村受理日	平成27年 3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2393200080-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成26年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム周辺は田園が広がり、窓からの景色ではのどかな風景とともに四季を感じられます。目の前にはスーパーがあり、買い物へは歩いて行けます。隣の自動車庫さんへ寄った時にはコーヒーを飲み、世間話をしたり、町の情報をお聞きしています。建物は木を使い、廊下、リビングは畳を使用しており、温もりを感じるような作りをしています。リビングに集まりたくなるような、そして、気楽にあればあちゃん家に遊びにきた！と思って頂けるようなホームを目指しています。
地域の行事お祭りや盆踊り、地域の保育園児との交流、毎週水曜日には図書館へ読み聞かせをはじめ、幼少期の子供ともふれあいの場でもあり、好きな本を借りてきています。恒例となっている「きらまつり」への出店も行ってます。今年度はのど自慢への村人さんとスタッフと一緒に参加してきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを実現させるための取り組みとして、まず手始めに全員の「お墓参り」を目標に掲げてチャレンジしている。既にほとんどの利用者がお墓参りを実現しており、継続的な取り組みとなっている。市内の
法人が運営する市内の4グループホーム・6ユニット対抗の第1回合同運動会が開かれた。6ユニットから選ばれた職員(実行委員)には、企画から準備、当日の運営に至るまでかなりの負担がかかったが、係わった職員相互の連帯感や信頼感が育まれ、収穫の多い取り組みとなった。運動会には多くの家族が応援に駆けつけ、利用者、職員を含めると140名が参加する大盛況の運動会となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今日も1日良い日でした…と理念に基づいて自己目標を立て、月に1度のミーティングを行い実践に繋げている。	ホーム内各所に理念を掲示し、意識づけを図ると共に、半期に一度ホームと職員の目標を決めている。それを基に毎月状況の報告と話し合いを行い、理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の自動車屋さんとは散歩がてら立ち寄り交流をしている。地域の行事、盆踊り、お祭りなどへも積極的に参加している。ゴミ捨ても利用者さんと一緒に行き、地域の近所のスーパーへ買い物へ行っている。	地域主催の「きらまつり」にはホームも出店し、利用者手づくりの物品を利用者自らが販売している。ホーム周辺の保育園児や小学生も含め、地域の方々との関わりを積極的に深める支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてお話が出来る機会にはお話ししている。図書館、お祭りへ多く出向き地域の方と交流を増やしている。きらまつりの出店では利用者さんに売り子となって販売して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催。家族、お米を購入している地域のお米屋さん、民生委員、地域包括等の参加。日々の暮らしの報告をし、最後に一言ずつ助言を頂きサービスの向上に努めている。	年6回の運営推進会議には、市の職員をはじめ多くの参加がある。会議では活動報告に留まらず、行政、地域、家族等から、地域交流の橋渡し情報や意見等も出されている。議事録は案内者全員に送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1回、市から介護相談員2名来所され利用者さんとお話しされています。地域包括の方より市内グループホームの感謝祭の案内を頂き、参加させていただき交流が図れた。	市の長寿課職員や地域包括支援センターの担当者は、運営推進会議等を通じてホームの課題や目標等を把握している。包括の担当者から地域の「おやじの会」との橋渡しの話を頂く等、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での学習会がある。身体拘束は行っていない。事故発生した時にも、ミーティングで拘束にならないようなケアを話し合い取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を実施し、スピーチロックについての話し合いや指導等も実施している。日中、玄関の施錠はせず、気分転換を兼ねて外で草取りをする利用者には見守りで対応する等、抑圧感のない生活の支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内学習会がある。入浴時全身の皮膚観察をしている。また言葉での拘束スピーチロックを特に気を付けてケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加や成長確認ファイルでの各自で学ぶようしている。話し合いや支援は実際には行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金、加算の変更がある時には、お知らせと運営推進会議での説明を行っている。契約に関しては管理者にて行っているが、重要事項の勉強会を開催している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1回のサービス担当者会議を行っている。また面会時にはコミュニケーションを図り、意見や要望を伺うようにしている。玄関にはご意見箱の設置をしている。	各種の行事や運営推進会議への参加、来訪時等、職員側から積極的に声掛けを行い、利用者の要望も含め、利用者・家族が意見や要望を出しやすい場作りに努めている。毎月の「きらだより」等で話題作りもしている。	単純に家族アンケートの結果を昨年実施のものと比較すると、利用者・家族の満足度が低下している。両年とも利用者全員分の回答であり、原因の究明が待たれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回自己申告書を法人が行っている。日々のことに関してミーティングで意見交換を行っている。年2回管理者と面談を実施している。	法人への自己申告、管理者との面談、毎月の会議、日々の電子カルテ等で意見や提案・要望を表せる機会が多い。それらをホーム運営に活かしながら、職員の働く意欲の向上につなげている。	法人が運営する市内4グループホーム(6ユニット)対抗の第1回運動会を開催した。家族も含め140名の参加があり、職員同士のきずなもでき、収穫の多い取り組みとなった。継続を。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度があり、賞与と年1回の昇給。ひとり一人の働き方や取り組みを見てくださっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の勉強会や外部への研修への参加をあっせんし参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会への参加をあっせんしている。同市内のグループホームの感謝祭への参加することにより交流が持てた。同法人内で運動会開催しご家族も含め交流ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族要望や不安を伺うい、安心して過ごせるようにスタッフで話し合い、支援できるようにしている。日々のケアも利用者目線でこまめに声掛けしたり、お話伺い安神して頂けるよう接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはこちらから話しかけるようにしている。また携帯メールや状況報告をさせていただきよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	普段の様子を細かく聞くようにし要望を伺い、ケアが必要なことをスタッフ間で共有し、良いサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの暮らしの知恵や料理等教わる。日常生活の中で出来ないところを手助けしながら、協力しながら共同生活の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一言でも何かお話しするようにしている。何かあれば携帯メールや電話している。月に1回のお墓参りへ出かける方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回のお墓参り、馴染みの美容院へご家族と行かれる方もみえ、昔よく行っていた食事処へいったりご自宅、息子さん職場へ行ったりした。	毎月利用者全員の墓参り目標を立て、現在8名への支援が実施されている。同窓会への参加や行きつけの美容院へは、家族の協力にて継続を支援できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立やトラブル回避のために席替えを行っている。トラブルのひやりはっともあげている。利用者同士が関わりが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別事業所へ転居したところへ会いに行ったり、ご家族様とお会いできればお話しをすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間シート、情報シートの活用し本人の意向や思いを尊重できるよう努めている。ご家族にもお話を伺ったり、話し合い、本人に寄り添えるようしている。	職員は利用者の日々の行動や表情、会話の中から思いや気づき等を都度拾い上げ、電子カルテや申し送りノートに記入している。	新システムへの移行のため、新・旧のシステムが並行して試行されている。職員の負荷軽減のためにも、早期に新システムへの移行が完了することを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートの確認し、ご家族へ生活環境等詳しくお話を伺うようにし情報を得るよう努めている。ライフレビューブックの活用もこれから行っていく予定である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの活用、ケアプランの課題に沿って支援している。現状の把握をしケアの工夫することにより、維持、改善ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のミーティング、カンファレンス、おむね3か月に1回のサービス担当者会議検討している。計画作成者、担当者と一緒に計画作成の検討をしている。	把握した利用者の思いや要望を、家族、計画作成担当者、担当職員、管理者で協議し、その後全職員で確認、利用者主体の計画作成に努めている。状態変化があれば話し合い、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテ導入。パソコン内での情報共有と申し送りノートやミーティング等で情報共有も行っている。また、ケアや計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりドライブへ出かけたり、余暇の提供を行ったり、好きな時間に面会にこなれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や図書館、読み聞かせへの参加し、ボランティアによる太極拳を月に1回行っている。 今年は「きらまつり」ののど自慢に出場できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の方、以前からのかかりつけ医へと個々である。診療前には伝達用紙への記入をし情報伝達している。	家族の付添いで受診している利用者には、利用者の状態を記入した伝達用紙(医師コメント欄あり)を渡し、受診後も家族と受診結果の確認を行っている。利用者の多くは協力医による訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め看護師への報告。 また看護師不在でも電話で相談、指示が頂けるよう行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と連絡を主には管理者が行っている。地域医療会議へ2か月へ1回開催あり、管理者、看護師が参加し関係づくり努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居を機に、今後のことを考えていただく機会とし、事前指定書の記入。2年1回、また、人により毎回のサービス担当者会議や体調の変化が見られたときには事前指定書の見直しを行っている。	利用者・家族の意向は契約時から聞き取り、定期的に確認している。さらに、状態変化の都度話し合い、見直している。重度化に際しては本人・家族の意向を踏まえ、医師の意見を確認しながら家族、医師、職員等で連携し、最善の支援を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内学習会がある。グループホームにも特変、急変対応フローや本があり、また緊急対応のマニュアルがある。訓練、実践力を身に付けるとまではいっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1から2か月に1回の避難訓練、炊き出し訓練や津波想定の実施。近く小学校の避難場所までの徒歩。年1回の消防訓練には、消防署職員の立ち合いと消火器の取り扱い訓練の実施している。	日中及び夜間、津波想定での避難訓練、ライフライン停止状態での炊き出し、消防署立ち合いの訓練指導等、利用者・職員が訓練を重ねている。地域とも、連携を含め今後の課題の解決に向けた話し合いがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会にて主に行って頂き、目標や標語を掲示し意識向上に努めている。ノックや排泄の声掛け、排泄中に膝にタオルを掛けプライバシー保護にも配慮している。	様々な場面で、職員は見守りに徹することを基本にしている。訪問時、職員は穏やかにゆったりと、利用者には「さん」付けで話しかけ、利用者もマイペースで思い思いの行動を取っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声掛けや着替えを一緒に選んで頂き、食事でも食べたいものを伺っている。ティータイムには好きな飲み物を飲んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物へ行きたい方を伺ったり、入浴も入りたい時間をお聞きし対応している。気持ちに寄り添いせかすことのないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの化粧台を居室へ置き化粧されている方もみえる。毛染めの希望される方は美容院へ行かれたり、ホーム内で市販の毛染め購入し染めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に本を見ながら献立を考えたり、食事の準備も持参のエプロン着用して頂き、食事の準備をして頂いる。ご飯の硬さも希望に添える様2種の硬さで炊いている。食後の後片付けも行って頂いている。	献立、買い出し、調理、配膳、片付け、自分の食器は自分で洗う等、利用者にも参加を促し、職員はフォローに回っている。訪問時も利用者から「湯呑は片付けるから」と声をかけられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食前には腸の活動を促すため経口補水液(OS1)をコップ1杯飲み、また外出後、入浴後、就前にも提供。減塩の必要な方への可能な限りの対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、実施している。係りにて口腔ケア用品の管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が多い方には1時間ごとのトイレ案内し、排泄パターンを記録し、トイレでの排泄、自立出来る様支援している。また出来る限り布パンツの使用に努めている。	利用者の自立度を見極めながら、出来るだけ自分でやってもらうため、最小限の身繕いや誘導支援に止めている。羞恥心に配慮しながら、必ずトイレで排泄ができる支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にOS1や牛乳の提供。食物繊維が取れる様、ご飯に麦を混ぜて提供。個人でヨーグルトを召し上がられている。排便確認しながら内服コントロールされているか方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回入浴出来る様お誘いしている。入浴時間も伺いながら、連日入浴される方もいる。気の合う方同士と一緒に入浴される方もいる。同性介助希望される方にも対応している。	入浴日や順番等の決まりはなく、夕食前後くらいまでであれば、利用者の気分に応じて柔軟に対応している。プライバシーにも配慮し、無理強いせず声掛けを行いながら、入浴を楽しめる配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思で好きな時に居室やリビングのソファで過ごしている。週に1回シーツ交換、布団干し、掃除を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイル(薬情書)があり、いつでも確認できる。目的、副作用が分る。内服の変更あればその都度、申し送りされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	図書館で借りてきた本を読まれたり、居室でアクリルたわし作りをしている方も見える。誕生日月には好きなところへ外出したり、映画や水族館へ出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるように努められている。利用者希望で卓球をおこなったり、一緒に衣料店へ買い物へ出掛けたりしている。ご家族様にも協力して頂いている。	散歩や買い物、気分転換の草取り、外食や喫茶、墓参り、馴染の理・美容院へと、積極的に外出している。利用者の希望に沿った外出支援も積極的に行っており、墓参りでは顔見知りの方と話す機会もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行ったときには出来るだけ支払いを行って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度行っている。携帯電話持参されている方もみえる。電話に慣れるようホーム内でも電話を掛けるようにしている。年賀状を出したり、知人からの手紙が届く方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやダイニング、廊下が仕切れるようになっている。月に1回のフラワーアレンジメント行い、季節の花を感じることが出来る。また、花や野菜を植えている。	天窓から柔らかな日差しが入り、各廊下には長椅子が置かれ、ゆったり過ごせる空間となっている。装飾も落ちつき家庭的で、ホーム内も清潔に保たれている。利用者が世話をしている金魚はみんなの癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子(ベンチ)があり、日向ぼっこされたり、時に談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花嫁道具の化粧台を置かれたり、ぬいぐるみを大切にされている方、旦那様との写真を飾っている方、折り機を部屋で行われる方がいる。	自宅で使用していた大型テレビがあったり、小さなテーブルが置かれていたり、友人から頂いた手作りの西洋人形がベッドに並んでいたり、居室の鍵を管理している利用者もあり、思い思いの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のカレンダーに出来事を記入し、10時・15時のコップ洗いをリビングのカレンダーに記入している。またホワイトボードにその日の出来事をお知らせしている。日常的な家事は利用者と一緒にしている。		